

紫波町発掘調査報告会 歴史関係団体の活動報告も行う

紫波町教育委員会主催

樋爪館懇話会等が発表

紫波町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の成果等を広く町民にお知らせするとともに文化財保護について理解を深めていただくことを目的として、去る3月4日(土)、町情報交流館(オガール)大スタジオで発掘調査報告会が開催された。また、紫波町文化財関係団体協議会会員の団体活動の報告も併せて行われた。

埋蔵文化財発掘調査の報告は、令和3・4年度に行われた町内8か所の発掘調査内容と発掘された遺構や遺物を、パワーポイント等により町教育委員会主任文化財専門員が報告された。報告された発掘調査遺跡は、樋爪館、古館橋、日詰西、稲村Ⅰ、間野村Ⅱ(以上が令和3年度)北日詰東ノ坊Ⅰ・Ⅲ、田頭Ⅱ、田頭(以上が令和4年度)である。

紫波町文化財関係団体協議会の会員団体からは、本会を始め7団体の活動報告がそれぞれの持ち味で行われた。発表順に赤沢まるごと博物館プロジェクト推進委員会、紫波町芸能保存会、紫波町観光案内人しゃ・べーる、樋爪館懇話会、紫波歴史研究会、紫凜会、史跡五郎沼愛護会が2年間の活動報告や今後の展開等を話された。



北日詰東ノ坊Ⅰ遺跡第2次発掘調査の様子
令和4年9月12日現地見学会の際、本会撮影
検出遺構：竪穴建物跡、土坑跡、溝跡、柱穴等
出土遺物：土師器、須恵器、あかやき土器等



3月4日開催紫波町発掘調査報告会の会場に
陳列された北日詰東ノ坊Ⅰ遺跡の出土遺物
(器の裏に当時の文字が書かれている)

《《《 4月の行事予定のお知らせ》》》

4月16日 (日曜日)	令和5年度 定期総会	午後1時30分～午後2時30分 赤石公民館 講堂 議案 1. 令和4年事業報告および収支決算について 2. 令和5年事業計画および収支予算について 3. 任期満了に伴う役員を選出について
	第139回 月例発表会	午後2時30分～午後4時30分 赤石公民館 講堂 発表者：宮 良 男 テーマ「日本の仏教⑱ 臨済宗と鎌倉」

令和5年3月15日開催した第138回月例発表会において、発表の際に用いました講談内容や資料等から一部分を抜粋して掲載しましたのでご了承願います。

大沢斗志子の講談 ① 「是信房お墓山縁起」

是信房とは

是信房は、治承4年頃(1180頃)、京都で生まれた。俗名吉田大納言藤原信明といい、朝廷に仕えていたが、思わぬ罪により、越前国に流刑された。その後無実であることがわかり、罪をゆるされたが、朝廷へは帰らず、出家して常陸国稲田というところで浄土真宗を始めた親鸞聖人を訪ねて弟子となった。是信房は、親鸞聖人の高弟24人のうち第10番目の弟子。

是信房が東北地方～彦部へきたわけ

建保3年(1215)に、親鸞聖人から、奥州に行き浄土真宗をひろめよ、と命令され、岩手県和賀郡一柏村にしばらく住み、浄土真宗をひろめた。

そのあと斯波郡彦部村の石ヶ森に移り、石森重願院本誓寺を建てて浄土真宗をひろめた。

また、秋田県内、秋田県内にでかけ布教行った。

是信房の墓

文永3年(1266)10月14日、86歳で死去。花巻市栃内で火葬したと伝えられ、現在「上人塚」として小公園となっている。

その後、彦部の石ヶ森に葬られ現在も「是信房の墓」がある。地元では「お墓山」とよんでいた。



是信房墓所(お墓山)彦部石ヶ森
(紫波歴史研究会ネットより転写)

石幡 信の講演「河村氏について」

相模国(神奈川県)足柄郡河村郷

相模の武士波多野遠義の子秀高から始まる。

秀高は父から同国足柄郡上河村郷(山北町)などの所領を譲られ、そこを本拠として河村氏と称した。

零落の危機

相州河村氏は、二代目義秀(秀清の兄)の時、治承4年の石橋山合戦の時、平家に見方して源頼朝を攻めたところから、所領を没収されて断罪を申しつけられた。

大庭景能の計らいで断罪を免れ、ひそかに蟄居した。

四郎秀清も、名をかくして鎌倉にひそんでいたが、機会をみて家名を挽回しようと決意していた。

奥州合戦：奥州に所領を得る

文治5年、四郎秀清はひそかに鎌倉軍に従軍し、阿津賀志山の戦いにおいて大いに武名をあげている。

戦後の論功行賞で、秀清は岩手郡・斯波郡の北上川東岸一帯と茂庭の地、そして摩耶郡の三ヶ所に所領を賜った。

秀清は、この三ヶ所の内どこに居を定めたかについてははっきりしないが、茂庭の地が中間地であることから、有力視されている。

秀清は、備中国上川郡の成羽の地に所領を得て鶴首城を築いたといい、さらに斯波郡の大巻にも大巻城を築いたとも伝えられている。



河村氏の居城といわれる大巻館跡
後方中央の館山が別名「河村館跡」
(紫波歴史研究会ネットより転写)